

那珂川市の文化芸術に対する「問い」(第3回審議会時)

文化芸術に鑑賞・活動する機会の創出

- 新** A 市民に感動を与えられる文化芸術の鑑賞機会はあるか？
- 市民の多くは福岡市など他市で文化芸術を鑑賞している(ア)
 - 市内の文化拠点はミリカローデンだが、市内の鑑賞環境への満足度は総じて低い傾向にある(ア)(ヒ)
 - 人口5万人の自治体&800席ホールでは、トップレベルのアーティスト公演は集客が難しい(ヒ)
 - トップレベルの文化芸術は「敷居が高い」と市民が認識(ヒ)

- B** まちなかで文化芸術に触れる機会はあるか？
- ミリカローデンへの交通アクセスは不便(ア)(ヒ)
 - 市内に市立公民館(4箇所)、自治公民館、ナカイチや那珂川北中(多目的ホール)等があるが、利用方法はバラバラ(ヒ)
 - 施設以外のまちなか(公園等)でのイベント等は少ない(ヒ)
 - 美術や文化財等に触れる機会は少ない(ヒ)
 - 南畑美術散歩を市民の多くが評価(ヒ)

- 新** C 子育てをしている方、働いている方、高齢者、障がい者、外国人等が文化芸術にアクセスできているか？
- 改正・文化芸術基本法では国民誰もが文化芸術にアクセスできることを求めている
 - 「仕事やその他の活動で時間がとれない」市民が多い(ア)
 - ナカイチでは文化芸術をキーワードに、人がつながり、新たな活動を創造する機会を創出している(ヒ)

- 新** D ウィズコロナ社会において文化芸術の鑑賞・活動機会はどうかあるべきか？
- 鑑賞・活動しなかった理由として、コロナ要因が多い(ア)
 - 文化芸術団体の意見でも、コロナ要因でこれまでの文化活動が実施できていない声がある(ヒ)
 - 文化芸術活動時のマスク着用問題が生じている(ヒ)
 - 直接鑑賞と比べて間接鑑賞のほうが多い内容もある(ア)

- 新** E 文化芸術に係る情報が市民に届いているか？
- 広報誌やミリカディアは全戸配布されているが、市民の多くが読んでいない可能性が高い(ヒ)
 - 文化芸術の鑑賞・活動に参加するきっかけは「口コミ」が多い(ア)
 - SNSの活用等が重要になっている(ヒ)

文化芸術活動環境の拡充

- F** 市内の担い手を育む文化活動をどう維持・拡充するか？
- 市内の文化団体は高齢化を主要な要因に会員減少が進んでいる(ヒ)
 - 新規会員募集をめざす団体がある。一方、文化団体の新陳代謝がこれまでも繰り返されてきた(ヒ)
 - ミリカサークルや文化協会などがあるが、うまく連携・共創が行われていない可能性がある(ヒ)
 - 文化活動の発表を行う機会が少なく、市民文化祭等も関係者以外は来っていない(ヒ)

- 新** G 子どもが文化芸術に触れる機会はあるか？
- 回答者の約26%がファミリー世帯である(ア)
 - 子どもが文化芸術に触れる機会を求める回答が多い(ア)
 - 子ども対象の文化芸術活動や、学校でのアーティスト派遣が行われる一方、子どもたちが自由に文化芸術に触れられる機会の創出を求める意見もある(ヒ)
 - 休日の文化部活動の地域移行を検討する必要がある

- 新** H 芸術家や作家の活動をどのように支援していくべきか？
- 南畑を中心に、那珂川市の環境を気に入って移住・制作拠点とする芸術家・作家が一定数存在する(ヒ)
 - 南畑芸術散歩への評価は高いが、これ以上の集客は困難(キャパシティがない)(ヒ)
 - 芸術家や作家それぞれの考え方はバラバラである(ヒ)

- 新** I 学校や大学、企業、自治体との連携をどのように進めるか？
- 他市では連携が進んでいる
 - アンケートでは学校連携を期待する意見が多い(ア)
 - 他自治体の団体との交流を望む声もある(ヒ)

- 新** J ミリカローデンはどのような文化拠点をめざすべきか？
- 文化ホール・生涯学習施設・図書館等が複合していることが特徴。今後はカフェ等も新規導入予定(ヒ)
 - リニューアルにより、エントランス等で自習等する学生が増加(ヒ)
 - 800席のホールは利用者・観客ともに市内だけでなく市外からも多い(ヒ)
 - 中小ホールを求める意見、減免措置等を求める意見もある(ヒ)
 - 中間支援機能を求める意見が多い一方、職員確保・育成が課題(ヒ)
 - ミリカ以外の施設(公民館等)の利用ルールの不統一(ヒ)

文化芸術を活かし他分野への波及

- K** 文化財を生かした取組をどう推進していくか？
- 市内には文化財が豊富にあり、文化観光を求める意見もある(ヒ)

- L** 文化芸術活動を通じた他分野の連携にどう取り組むか？
- ミリカサークル等には「健康維持」を目的とした分類がある(ヒ)
 - 社会的処方考えでは、文化芸術活動を通じて社会的孤立を防ぎ、心の健康の回復につながる
 - 一方でアンケートでは、文化財の活用を求めつつも、観光に対する期待は少ない(ア)
 - 文化芸術との結び付きが強くなるとよい分野については「学校教育」「高齢者、障がい者福祉」「生涯学習」と答えた人が多い(ア)

- M** 文化芸術活動を通じた障がい者の社会的包摂に取り組むか？
- 国は「障がい者文化芸術推進法」等、障がい者の文化芸術活動への参加を促進
 - 市内でも障がい者が文化芸術に参加する機会があり、今後、ミリカローデンが活動を強化する予定がある(ヒ)

【凡例】

新 : 第1回審議会でも市が提示した課題以外の新規課題

(ア) : 市民意識調査(アンケート)で出た意見

(ヒ) : 文化芸術団体調査(ヒアリング)で出た意見

施策・事業の推進

- 新** 那珂川市の文化芸術の推進体制はどうかあるべきか？
- 主な主体として市、ミリカローデン(財団)、文化協会がある
 - ナカイチ、南畑など
 - 文化団体や活動等をつなぐ中間支援機能をどう確保・育成していくか
 - 文化芸術振興のための財源をどうするか？

第3回審議会の主な意見

①文化芸術のことがわからない人への対応

- ・アンケートで「分からない」と回答している人＝「文化芸術のことがわからない」ということではないか。そのような人が、これだけの人数、割合いるということに対してのアプローチが抜け落ちているのではないか。
- ・具体的にはEの情報発信の所になってくるかと思う。広報紙やミリカディアは全戸配布されているが、多くの方は読んでいないかもしれない。また、口コミが参加するキッカケとして多いが、それは既に文化芸術に接している人が知り合いにいる人であろうから、わからない人ではないだろう。「SNSの活用が重要となっている」とあるので、ヒアリング結果を見ると、「大事ではあるが、使い方がわからない」とあり、これもあまり効果的にやれている感じではない。そのような状況の中で、わからない人たちに何をしていくか、「文化芸術に関わると面白い」ということをもっと様々な人に伝えるはどうしたらよいかは、計画の中に入れておく必要がある。

②ボランティア活動や、文化イベントをワイワイ盛り上げるまちづくりなどの担い手の育成の視点

- ・同様に43頁のボランティア活動についても同様である。95%が活動もしていないし、不明・無回答も25%で、これもピンと来ていないのだろう。文化芸術の担い手はアーティストに限らず、文化イベントをワイワイ盛り上げるようなまちづくりみたいな人も含めて、もっといた方がよい。その意味で「担い手を育む」や「芸術家の支援」はあるが、それ以外の担い手育成の視点はあった方がよいのではないか。

③文化芸術の多様性、社会的包摂、アクセシビリティ、他分野への波及の整理

- ・多様性という言葉が必要ではないか。Mの中に社会的包摂とあるが、障害の方だけではない。関連の言葉はCの所に幾つかあるが、LGBTQの方などもいる。
- ・私も同意見である。アンケートで回答のあった方を基本に、また事務局として網羅的に設定しているだろうが、社会的包摂について見出しで障がい者に限定されている。これまで議論に出なかったが、外国にルーツのある方や、アンケートを回答できる人という制限がある時点である程度のマジョリティ側の回答と捉えた方がよい。
- ・文化芸術のアクセシビリティについて、CやMで触れており、CやMがどのような接点を持つのかを踏まえた判断、そこを意識した構造になってくるかと思う。
- ・Cはアクセシビリティだが、Mはそれ以前の入口、知るためのアクセス、文化芸術活動が自分たちも関係があるんだと思えてはじめてアクセシビリティが機能するところがあると思う。「文化芸術活動が自分たちのものでもあるんだ」ということは、「この社会は自分たちもいて良い社会なんだ」という議論と似ている。そのような観点で言うと、他分野というのは障害だけではなく、自分たちも関係があるんだ、ということがMに入ってくると良いだろう。その先に具体的に文化芸術活動・鑑賞に参加したり、活動したりする時に障壁がある場合に、その障壁をどう取り払うかを考えるのがCだろう。
- ・委員が先ほどおっしゃったように、「ここに居て良い」という存在、文化芸術にアクセスして鑑賞できることより踏み込んだイメージである。ウェルビーイングや社会的処方は何処かに出てくるか。Lに入っているのではないか。
- ・他にICTやAI、情報関連技術も重要になる。Cのアクセシビリティには、そのような技術も入ってくるだろう。一方で、Mは質が異なる。複合的という訳では無い。もっと文化芸術活動が波及していく、その人の存在そのものに関わっていくというイメージがある。

④文化芸術の他分野への波及

- ・Mについて他分野への波及といているが、本来は根幹に据えるべきではないか。整理し直したほうが良い。
- ・Mは障がい者文化芸術推進法を意識した所だと思う。C、L、Mも咀嚼し直す必要がある。
- ・K、L、Mは、文化振興課だけでは取り組めない政策が書いてあると思う。AからEについては、基本的には文化振興課や、ミリカローデンと協働で取り組める内容である。その他、社会教育や障がい者福祉、高齢者福祉の部署と協働することを念頭に置いた整理も1つ選択肢としてある。そのように考えると、Mは、障がい者だけを強調していることが気になっている。

文化芸術を「知る」「届ける」

A 文化芸術について市民が知るきっかけづくり
 ➢ 文化芸術の市民アンケート回答率は住民意識アンケートの回答率より低い水準となっている(ア)
 ➢ アンケート回答者の内、文化芸術の環境に関する設問に対して「分からない」と回答しているひが多い(ア)

B 文化芸術に係る情報を市民に届ける仕組みづくり
 ➢ 広報誌やミリカディアは全戸配布されているが、市民の多くが読んでいない可能性が高い(ト)
 ➢ 文化芸術の鑑賞・活動に参加するきっかけは「口コミ」が多い(ア)
 ➢ SNSの活用等が重要になっている(ト)

C 全ての人々が文化芸術に触れる繋がりづくり
 ➢ それぞれの分野の関係部署、団体との連携がとれていない
 ➢ 市内でも障がい者が文化芸術に参加する機会があり、今後、ミリカローデンが活動を強化する予定がある(ト)
 ➢ 改正・文化芸術基本法では国民誰もが文化芸術にアクセスできることを求めている

D 子どもに直接情報を届ける広報活動
 ➢ ICTを活用した取り組み
 ➢ 学校、関係施設、団体との連携

E 市内団体、地域との連携
 ➢ 事業がそれぞれ単発で開催されている
 ➢ それぞれの情報共有、情報発信を行うツールがない

F 学校や大学、企業、自治体との連携
 ➢ アンケートでは学校連携を期待する意見が多い(ア)
 ➢ 他自治体の団体との交流を望む声もある(ト)

文化芸術を「広げる」、文化芸術が「繋げる」

G 感動を与える文化芸術の鑑賞機会の提供
 ➢ 市民の多くは福岡市など他市で文化芸術を鑑賞している(ア)
 ➢ 市内の文化拠点はミリカローデンだが、市内の鑑賞環境への満足度は総じて低い傾向にある(ア)(ト)
 ➢ 人口5万人の自治体&800席ホールでは、トップレベルのアーティスト公演は集客が難しい(ト)

H 暮らしの中で文化芸術に触れる機会の創出
 ➢ ミリカローデンへの交通アクセスは不便(ア)(ト)
 ➢ 施設以外のまちなか(公園等)でのイベント等は少ない(ト)
 ➢ 美術や文化財等に触れる機会は少ない(ト)
 ➢ 南畑美術散歩を市民の多くが評価(ト)

I 全ての人々が楽しめる機会の創出、環境整備
 ➢ 「仕事やその他の活動で時間がとれない」市民が多い(ア)
 ➢ ナカイチでは文化芸術をキーワードに、人がつながり、新たな活動を創造する機会を創出している(ト)
 ➢ ミリカローデン那珂川をはじめ、市内での文化芸術活動拠点が障がい者や外国人等、誰もが利用しやすい環境が整っているか把握できていない
 ➢ 鑑賞・活動しなかった理由として、コロナ要因が多い(ア)

J 子どもが文化芸術に触れる機会の創出
 ➢ 回答者の約26%がファミリー世帯である(ア)
 ➢ 子どもが文化芸術に触れる機会を求める回答が多い(ア)
 ➢ 子ども対象の文化芸術活動や、学校でのアーティスト派遣が行われる一方、子どもたちが自由に文化芸術に触れられる機会の創出を求める意見もある(ト)

K 文化芸術活動を通じた他分野との連携
 ➢ ミリカサークル等には「健康維持」を目的とした分類がある(ト)
 ➢ 文化芸術活動を通じて社会的孤立を防ぎ、心の健康の回復につながる
 ➢ 一方でアンケートでは、文化財の活用を求めつつも、観光に対する期待は少ない(ア)
 ➢ 文化芸術との結び付きが強くなるとよい分野については「学校教育」「高齢者、障がい者福祉」「生涯学習」と答えた人が多い(ア)

文化芸術を「育てる」

L 活動しやすい環境づくり
 ➢ 市内に市立公民館(4箇所)、自治公民館、ナカイチや那珂川北中(多目的ホール)等があるが、利用方法はバラバラ(ト)
 ➢ コロナ要因でこれまでの文化活動が実施できていない(ト)
 ➢ 市内のどんな場所で活動できるか把握できていない

M 芸術家や作家の活動支援、協働事業
 ➢ 南畑を中心に、那珂川市の環境を気に入って移住・制作拠点とする芸術家・作家が一定数存在する(ト)
 ➢ 南畑芸術散歩への評価は高いが、これ以上の集客は困難(キャパシティがない)(ト)
 ➢ 芸術家や作家それぞれの考え方はバラバラである(ト)
 ➢ 祭りなかがわや市内の行事で那珂川市に縁がある作家を起用する機会も増えてきている

N 歴史の継承
 ➢ 市内には文化財が豊富にあり、文化観光を求める意見がある(ト)
 ➢ 伝統文化の後継者育成が課題となっている(ト)

O 活動を支える人たちの育成
 ➢ ボランティアや企画運営について、興味がある人は一定数いるが、実際に活動している人は少ない結果となっている(ア)

P 子どもへの文化芸術活動支援
 ➢ 休日の文化部活動の地域移行を検討する必要がある
 ➢ 子ども対象の文化芸術団体からは、市内での発表の場が少ないとの意見がある(ト)

Q 市内の担い手を育む文化活動の支援
 ➢ 市内文化団体は高齢化等が要因に会員減少が進んでいる(ト)
 ➢ ミリカサークルや文化協会などがあるが、うまく連携・共創が行われていない可能性がある(ト)
 ➢ 市民文化祭等も関係者以外は来ていないという声がある一方で、文化祭が市民との繋がりのきっかけとなり会員増に繋がっている団体もある(ト)

社会的包摂

子ども

連携・協働

施策・事業の推進

R ミリカローデン那珂川の新たな文化拠点化
 ➢ 文化ホール・生涯学習施設・図書館等が複合していることが特徴。今後はカフェも新規導入予定(ト)
 ➢ リニューアルによりエントランス等に来る学生が増加(ト)
 ➢ ホールは利用者・観客ともに市内だけでなく市外からも多い(ト)
 ➢ 中小ホールを求める意見、減免措置等を求める意見もある(ト)
 ➢ 中間支援機能を求める意見が多い一方、職員育成が課題(ト)

S 那珂川市の文化芸術の推進体制の強化
 ➢ 主な主体として市、ミリカローデン(財団)、文化協会がある
 ➢ ナカイチや南畑など文化芸術活動に取り組んでいる地域、施設がある
 ➢ 文化団体や活動等をつなぐ中間支援機能をどう確保・育成していくか
 ➢ 文化芸術振興のための財源をどうするか

文化芸術を「知る」「届ける」

A 文化芸術について市民が知るきっかけづくり
 (既存)
 ○ミリカでの文化芸術以外のイベント（青空マルシェなど）
 (今後の展開)
 ●文化芸術関係以外のイベント来館者へのアプローチの検討
 ●地域でのアウトリーチ検討
 ●他分野事業との協働事業実施の検討

B 文化芸術に係る情報を市民に届ける仕組みづくり
 (既存)
 ○ミリカ：ミリカディア、HP、SNS
 ○市：広報なかがわ、HP、SNS
 (今後の展開)
 ●新たな情報発信者の仕組みづくりの検討
 ●実践者に対する広報の技術支援検討【講座等】

C 全ての人々が文化芸術に触れる繋がりづくり
 (今後の展開)
 ●庁舎内での部署間連携するための仕組みの検討

D 子どもに直接情報を届ける広報活動
 (今後の展開)
 ●児童・生徒配布のタブレット等を活用した情報発信
 ●エントランス利用者へのアプローチの検討
 ●学校、こども館等との連携

E 市内団体、地域との連携
 (今後の展開)
 ●市内の文化芸術活動の情報を集約、発信するツールの検討

F 学校や大学、企業、自治体との連携
 (今後の展開)
 ●大学との共同研究、学生が参画する事業等の検討
 ●近隣自治体との共同事業や連携協定等の検討

文化芸術を「広げる」、文化芸術が「繋げる」

G 感動を与える文化芸術の鑑賞機会の提供
 (既存)
 ○ミリカローデン那珂川での自主事業の実施
 (今後の展開)
 ●市民のニーズを把握、それに応じた事業の検討

H まちなかで文化芸術に触れる機会の創出
 (既存)
 ○ナカイチでのイベント、南畑美術散歩、裂田溝ライトアップ等の実施
 ○市内公共施設等に美術品の展示
 (今後の展開)
 ●地域でのアウトリーチ事業の検討
 ●市内での文化芸術活動の実践場所の把握

I 全ての人々が楽しめる機会の創出、環境整備
 (今後の展開)
 ●運営面や施設が障がい者、外国人、性的マイノリティ等に配慮したものになっているか点検実施、必要に応じて対応
 ●文化芸術との関わりが少ない人々を把握し、その人たちに寄り添った事業の検討

J 子どもが文化芸術に触れる機会の創出
 (既存)
 ○ミリカによるアウトリーチ事業の試行実施
 ○アンケート実施による子どもの意識調査
 (今後の展開)
 ●学校との連携、アウトリーチ事業の検討
 ●子ども対象事業の検討

K 文化芸術活動を通じた他分野との連携
 (既存)
 ○ミリカサークルにて「健康」に関するサークル開講
 ○ミリカにて社会包摂関連事業の実施
 ○南畑地域への移住につなげるため、南畑美術散歩を開催
 (今後の展開)
 ●他部署、団体等で行われている文化芸術関連事業の把握
 ●様々な分野の関係者に対して文化芸術を活かした事業展開について情報発信、相談窓口の検討
 ●地域課題解決に向けた事業の検討

文化芸術を「育てる」

L 活動しやすい環境づくり
 (今後の展開)
 ●市内公共施設の利用方法、料金等の情報集約
 ●社会情勢と実践者の想いを踏まえた活動のルール作り

M 芸術家や作家の活動支援、協働事業
 (今後の展開)
 ●市内で活動する芸術家のリスト、パンフの作成検討
 ●市内各所での作品展示等の事業の検討

N 歴史の継承
 (既存)
 ○裂田溝ライトアップの実施
 (今後の展開)
 ●広報についての協力体制の確立
 ●他団体との交流の場の設定について検討

O 活動を支える人たちの育成
 (今後の展開)
 ●ボランティア等の組織化検討
 ●講座の開催や、パンフレットの作成

P 子どもへの文化芸術活動支援
 (今後の展開)
 ●市内団体と協働し文化部活動の在り方について検討
 ●子どもたちの発表の場の検討

Q 市内の担い手を育む文化活動の支援
 (既存)
 ○竹を使った文化、芸能の創出への支援
 ○文化協会との連携
 ○市民文化祭の開催
 (今後の展開)
 ●市民文化祭の内容の見直し（繋がり、市民が参画する仕組み）

社会的包摂

子ども

連携・協働

施策・事業の推進

R ミリカローデン那珂川の新たな文化拠点化
 (今後の展開)
 ●施設運営に関する中長期計画の策定について検討
 ●利用料金の見直し及び例規改正について検討
 ●指定管理団体の職員育成について指定管理者と市で協議

S 那珂川市の文化芸術の推進体制の強化
 (今後の展開)
 ●市・ミリカローデン以外の推進主体の確立
 ●文化団体や活動等をつなぐ中間支援機能の確保・育成
 ●文化芸術振興のための財源の確保

那珂川市文化芸術推進計画のフレームワーク（案）

